

福岡県

サークル学習会

福岡県手話の会連合会の 組織部・研修部合同で行いました

「手話と演劇」福岡唯一の手話劇団 ～言葉の壁をなくしたい～

鈴木玲雄氏



占野美智子氏



吉田雫華氏



福岡ろう劇団 博多

講師：鈴木玲雄氏(代表) 占野美智子氏
補助：吉田雫華氏

11月28日(日)クローバープラザで開催されたサークル学習会に参加しました。このお話はとても興味深く、設立した最初の頃はクーラー無しの体育館の様な場所で練習を行ない、衣裳は全て自分達で手作りし、色々工夫しながら現在も公演を続けている事、そして新しく入団した小学6年生の女の子がとても可愛かったです。

「ちょっとやってみよう」引き出しトレーニングでは、参加者の中から選ばれた2人を劇団員含め3人でお題に添って手話を使わない即興芝居は面白かったです。さすがに劇団の方の表情豊かなアドリブ演技は別格だなあ～と思いました。

福岡県 北九州手話の会 新虹の会 戸畑支部 管谷京子

平成4年2月に設立され、これまでの演目数はなんと25作品！

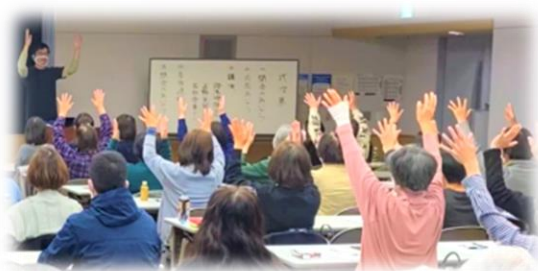
その中で、占野さんが特に印象に残っていると話されたのが、記念すべき最初の作品「あめ買い物語」。博多に伝わる昔話をモチーフに台本を作った手話劇です。台本以外にも衣装や大道具、小道具など手作りで試行錯誤しながら公演にたどり着き大成功となったようで、表情豊かにお話していただきました。

鈴木さんからは、作品決定から公演までのプロセスや、きこえない世界の工夫についてお話がありました。手話表現と演技の工夫の一つに「メリハリをつける」とのこと。手話ばかりだと見る側も疲れるので、セリフを全て手話で表すのではなく、その時の背景や設定を考え、空間を利用し表現するとのことでした。またセリフの内容を絵にすることで理解していく時もあるとのこと。手話で演じるって奥が深いんですね。また、引き出しトレーニングとして「ニュース」をテーマに吉田さんの即興の演技を見ることが出来ました。入ったばかりということで、自己紹介は緊張していた様子でしたが、演技となると別人でした！素晴らしいかったです！！

現在は、次回作「プリズム」の稽古中。劇団の裏側を知ることができた今回。次回公演がとても楽しみにになりました！



占野氏による白熱の即興芝居



「魅せられる写真の撮り方を学ぼう」 講師：広報部長 上森信義氏



講師作品

スマホで動画の切り取り編集（トリミング）をしたことがなかったので勉強になった。なかなか話す機会もなかったので良い時間だった。携帯電話は本当に携帯するだけだったが、写真を撮る時の視点が変わり、レベルアップするコツを教わった。皆の撮ろうとする意気込みが高まり、活気に満ち溢れ、それぞれに楽しんでいた。皆でわいわい言いながら助け合ってやったのがとても楽しかった。

福岡県 宇美町手話の会 西田暢子

久しぶりに開催された広報セミナーに参加しました。以前参加した時はデジカメで参加しましたが、今回はスマホで参加し、スマホのいろんな機能を使って動画を取り、編集し、切り取りたい部分を選んでトリミングして良い場所をアップしました。スマホの機能なのに、自分ですごいと思い、初めての体験をしました。

講師の方にいろんなアドバイスを頂いたのですが、思ったように撮れたのと、まだまだの出来なのがあり、とても奥深いと思いました。どうしたら広報に載せられるような写真が撮れるか今後もいろいろ教えていただきたいと思いました。また参加したいです。

福岡県 みやま市手話の会 山下昭美



大分県

県手連研修会

2021年度の大分県手連研修会が12月19日(日)に行われました。

昨年度に続いて本年度もコロナ感染防止のためにオンライン会議システム Zoom を使用して実施し、90名以上の参加者が県内各地で受講しました。

講師は大分県聴覚障害者協会女性部長の佐藤厚子氏で、「大分の手話～通じる手話でしゅわろう～」をテーマとした講演でした。

内容としては、講師自らの体験談や新しい手話と昔から使われていた手話の比較、通訳についての基本的な考え方、そして病院で使われる



大分の手話表現などでした。

ろう者の手話から学ぶことの大切さを学ぶことのできるあつという間の1時間でした。

大分県 はぐるま（夜の部） 寺司知仁



県手連研修会

「さあ、次は地元よ！」

12月5日(日)、長崎県手連研修会がオンラインで開催されました。

県内のサークル（県手連未加入の吉岐手話サークル含む）とろうあ者8名を含め、90名の参加でした。

長崎県手話通訳士協会の「人として学習会」と同じ居場所づくりのテーマでしたが、今回は大村市黒丸の施設の話ではなく、原点に戻り地元の事を考えようと北部ブロックを中心に企画を進めました。

まずは居場所づくり推進委員会の小濱規男氏（長崎県手連会長）から居場所づくりの取り組みについての説明があり、グループワークに入りました。

機材に慣れないこともあり開始時間が遅れ、段取りミスや説明不足のせいか地元の話ではなく、やはり、大村の施設の話になっていたサークルが多くなってしまいました。

しかし、各地からの発表の中には地域のろうあ者との繋がりがわかってきたところもあり、今後の自分たちの活動が見えてくるような意見も出てきて良い研修会になったと思います。



大村市黒丸のシェアハウス
「手話ハウス 結（ゆい）」の完成予定図



研修会中のリモート画面

大村市黒丸の次は「さあ、次は地元よ！」をスローガンに、ろうあ者とお茶会、バザー、勉強会などをして、たくさんの出会い、夢を語る場、資金作りを考え活動を続けていけたらと思いました。

まだスタートしたばかりの居場所づくりですが、県内各地にシェアハウス、デイサービス、グループホームができるといいですね。

長崎県 佐々手話サークル 江口直美

県手連一日研修会

2年間開けなかった鹿児島県手連一日研修会を、3月13日(日)指宿（いぶすき）市にて、手話通訳、要約筆記他たくさんの方々の協力で開くことができました。一部サテライト会場を設け、Zoomを活用して行いました。

講師は医師・ジャーナリストである、県在住の森田洋之氏です。テーマは「～身近な地域医療、誰もが迎える終末期～」財政破綻の夕張市へ医療支援入った話から、写真・動画を使い幸せな終（つい）の別れについて考えようとお話です。

際（きわ）まで元気で明るい老人を患者に変える、制限された部屋で死を待つ人々…現代医療の画一性、医療費高騰の原因に迫り、患者を社会的空気の制限から、解放させ！！と現代医療の側面を強く指摘されました。

オミクロン株拡大するも、クラスター発生施設では陽性の職員・利用者同士助け合っているとのこと。





マスクだ、消毒だ、距離をとれなどの推奨は、人間性を失わせる。ましてや一般患者と家族すら会わせないとは、正気の沙汰ではないと仰る。書籍を自費出版なさるほど異端児と呼ばれる氏ならではの発言でしょう。

健康な国民生活とは、肉体的・精神的・社会的健康を意味するとの言葉は、深く身に染みしました。今後プライマリーケア医＝在宅医を増やす必要があるのだろうと思います。

研修会主催の反省点としては、Zoom に不慣れなため一部しかできなかったのが今後参加者が増えるようにしたいです。

鹿児島県 青空 上村昭徳



佐賀県

耳の日記念の集い

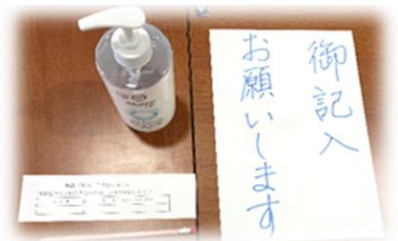
映画「咲む」上映会を行いました



3月13日(日)唐津市で、耳の日記念の集い「咲む」上映会が開催されました。年初から始まった新型コロナ第6波の影響でチラシやチケットの準備が進まず、本格的に準備を始めたのは2月に入ってからでした。チケットを買ってもらうため、ろうあ者や関係者に直接会うこともままならず、3月5日(土)時点での販売枚数は約20枚程度でした。

最後の1週間を「短期決戦週間？」と名づけ、議会事務局、唐津市役所、地元ケーブルテレビ、市役所記者クラブ、教育委員会に告知のお願いをしました。他にもLINE VOOM、Facebook、ツイッターを使っ

ての発信をしました。SNSでの発信は期待したほどの反応がありませんでした。最終的には104枚のチケットが売れ、目標の100枚は何とか達成して関係者一同胸をなでおろしました。当日は検温、消毒、来場者の名簿の準備をして感染予防を徹底したおかげで感染者を出さずに済みました。



佐手連主催 学習会

佐手連主催学習会を毎年1回1ヶ所に集まって開催していましたが、今年はコロナ感染を心配して分散開催することにしました。12月～1月にかけて、会場を4ヶ所に増やし多くのサークル会員が気軽に参加しやすいようにしました。

参加者は例年の約2.5倍の100名程度が参加され好評でした。

佐賀県 唐津手話の会 富田芳郎次



熊本県手話サークル 「わかぎ」研修会

熊本県

2月6日(日)10時から12時まで県わかぎ研修会を2年ぶりに行いました。

今回は、オンライン開催です。講師には、群馬大学教授の金澤貴之氏、「言語としての手話」をテーマに手話とは何か、丁寧に詳しく時間の限りお話頂きました。コロナ禍の開催もあり、参加者は本会場に集まって視聴する集合形式だけでなく、自宅で視聴できるようにZoomを活用し、開催しました。自宅で視聴できない方も地元にてサテライト会場を設け、さらに都合が悪く見られなかった方のためにYouTubeによる申込者限定（期間限定）の見逃し配信も行いました。

新型コロナウイルスの先行きが不安の中、ギリギリまで開催方法を検討し、何とか開催することが出来ました。

当日は、Zoomに不慣れな方は、設定に時間がかかったようでした。

講師にも来熊して頂きたかったのですが、また次回お会いできることを楽しみにしたいと思います。

Zoomに限らずオンライン開催について、1つの画面に講師・手話通訳・要約筆記と映し出す設定など詳しい方がいると心強いと感じました。

研修会の参加者より感想を頂きましたので紹介したいと思います。

熊本県 天草わかぎ 橋本健一

県わかぎ研修会に参加して

◆かなり専門的〈言語学？〉で難しかったです。研究者向けという感じでした。初心者には難度が高かったです。その中で人の言語は自然発生的なコミュニケーションとして話せるようになった。NHKのチコちゃんでも【どうして世界で言語が違うのか？という質問に大切なものが違うから。】に先生も同意しておられましたが、それは進化論からの発想でしょうか…？と思いました。

日本語と中間手話又日本語対応手話の違いとか考えたこともありませんでしたから、とても勉強になりました。しかしお互いに『伝えたい、理解したい』という思いがあれば通じるのかな、ぜひ通じ合いたいと思いました。国籍が違う男女でも言語、文化の違いを完全に理解して結婚している人はいないんじゃないでしょうか…？大事なのはやはり【愛】でしょうね。



天草サテライトの様子

熊本県 八代わかぎ 大矢一英

◆リモートで行われる研修にきちんと参加するのは初めてでした。

とても分かりやすく、見やすい画面で、集中してみる事ができました。

今まで「手話は言語である」ということは、理解していたつもりでしたが、「言語」なのは「日本語」であって、「日本語対応手話」という言語は存在しないという話に、とても納得させられました。

それと同時に、自分が今やっている手話がとても曖昧なものだということも認識させられました。

ろう者の手話を見て「すごい！あんな風に表現したい」と思いながらも、「日本手話を学ばねば！」という気持ちはあまり強くはありませんでした。

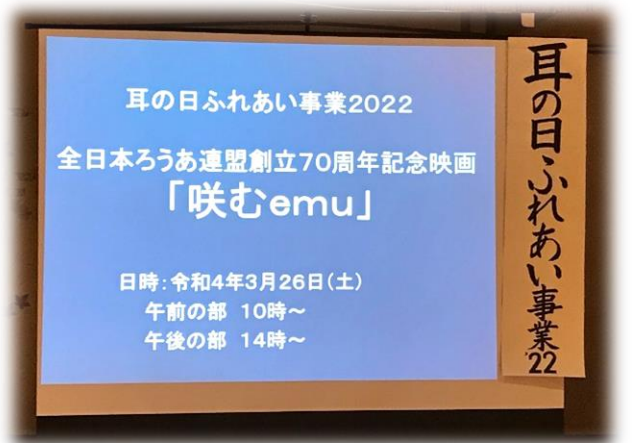
「例えば英語を学ぶ時は、ネイティブの発音やイントネーションから学ぶ。日本語交じりの英語（例にルー大柴を挙げておられました）を学ぼうとは思わないだろう。」

自分の手話がルー大柴的な手話で終わらないように、頑張ろうと思いました。

熊本県 八代わかぎ 大井聡恵

3月26日(土)、耳の日ふれあい'22in 人吉球磨を開催しました。昨年、一昨年とコロナや豪雨災害でイベントは中止。今回満を持しての開催となりました。

内容は、全日本ろうあ連盟創立70周年記念映画「咲む」の上映会です。例年のような出張手話教室や手話歌などのみんなで集まって準備練習がままならないことは分かっていたので、小さな上映会をもってこの企画でした。準備は役員数人だけで行い、サークル会員には無理の無いよう、チケット販売2枚(自分とお友達)をお願いしました。ただ令和4年も年明け早々にまん延防止重点措置がとられ、サークル活動は直前まで休止。連絡はLINEのみ。当初予定していた3月13日も、3月6日解除予定のまん延防止措置を九州で熊本県だけが3月21日まで延長。当初、措置延長の場合は中止としていましたが、会場のホテルが延期を快諾していただき、21日にまん延防止措置が解除。26日開催することが出来ました。



目標動員数は100人。座席はソーシャルディスタンスを取り、午前午後の2回に分けて開催。入場前の消毒・検温はもちろん、不織布マスクの必着と、会場内での私語の厳禁を徹底。当日受付での金銭授受を減らすように、座席は全席指定の前売り。受付で氏名と連絡先を記入していただいたチケットを、座席番号券と交換。後日、来場者の中にコロナ発症者が出た場合に備え、どこに誰が座ったか分かるように工夫しました。最終的に6人の子供を含め89名が来場。DVDレンタル料や会場費など、ちょうど賄うことが出来ました。

当日はあいにくの雨、というか、春の大嵐予報にお先真っ暗でした。午前来場のお客様は大変でしたが、開演後は晴れ間も見え、何とか無事に終了できました。

午前中に人吉市長、市の福祉課長なども来ていただき、最後まで鑑賞され、大変感動されていました。現在の松岡市長が初当選してから6年、名前だけの手話の挨拶から、今回は最後まで手話で通して挨拶され、この歳月に思いをはせました。映画も大好評。今年アカデミー賞の最高峰作品賞に「コーダ あいのうた」が輝き、助演男優賞をろうの俳優が受賞。大きな話題になりました。私もこの映画も観ましたが、映画も素晴らしく感動的でしたし、ろうの問題は世界共通なんだと、改めて問題意識を持ちました。この「咲む」は内容的には全く違うものですが、聴覚障害だけでなく、日本の過疎化、様々な障害に対する差別意識など、これまでタブー視されてきた問題に直球で向き合い、解決策が見いだせる希望の持てる素晴らしい作品です。会場の外は春の嵐でしたが、会場内は来場者の皆さんの感動の嵐で包まれました。本当に開催して良かったです。

ただ来年はまた、ろうのみんなとサークルのみんなで、知恵を出し合い、練習や準備に励み、当日のイベント会場にたくさんのお客様を招くことが出来る、そんな耳の日ふれあいになることを願ってやみません。

熊本県 人吉・球磨わかぎ 平澤ちえ子



全国の手話サークル連絡協議会との 情報交換



九手連理事会の中では何度かご紹介しているところですが、令和2年2月からグループLINEによる東京都サ連、福島県手連、千葉県サ連との「情報交換」を始めました。

きっかけは、平成28年度の東京都サ連の一日研修会の講師として、東北（福島県手連）の大仁田会長（当時は副会長）、九州（熊本県わかぎ）の森が招聘され、東京都、福島、九州（熊本）との情報交換を行い、「いつかは全国に展開できたら良いね!」という話をしながら、その後もずっと連絡を取り合っていたのですが、

コロナ禍での手話サークルの様子をお互い情報交換するうちに、令和3年10月からは「全国の手話サークル連絡協議会」とのグループLINEの開設となりました。

さらに、令和3年11月7日(日)には全国の手話サークル連絡協議会との第1回情報交換会をZoomにより開催し、令和4年1月30日(日)には第2回目の情報交換会を同じくZoomにより開催しました。

現在は、コロナ禍における各都道府県手（サ）連や加盟各サークルの活動の工夫、各手（サ）連の紹介を情報交換する程度ですが、今後、この繋がりをどう展開していくかは課題です。

なお、この「全国手話サークル情報交換」のグループLINEですが、少しずつ情報交換の輪を拡げ、現在、東京都サ連、九手連のほか、北海道、東北（福島）、関東（東京、千葉）、関西（大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良）、九州（佐賀、長崎、熊本、大分、鹿児島）、そして宮城県の「みみサポみやぎ」と、北は北海道から、南は九州、鹿児島までの広がりを見せています。甲信越（新潟）、四国（愛媛）も新たに参加を検討中だそうです。将来的に、全国47都道府県への横の繋がりが展開できると良いですね！

九手連相談役（熊本県わかぎ事務局長） 森保夫

・・・編集後記・・・

今年度最初の「はっけん」のお届けとなりました。発行にあたり、ご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

コロナ禍を乗り切ろうと、工夫しながら充実した活動をされている様子が伝わると、幸いです。よろしければ、九手連ホームページ「掲示板」へ皆さまのご意見、ご感想をお寄せください。

九州手話サークル連絡協議会

発行責任者 池尻和吉

事務局長 小濱規男

広報担当 長崎県 山本佳子